

### 三 調査結果の考察と課題

本調査は、町民の「人権課題に関する意識」を把握し、調査の目的である「今後の人権施策の方向性」を見出すために実施したものである。本章では、その調査結果を踏まえて考察を行い、今後の施策立案に向けた課題を明らかにする。

なお、「三 調査結果の考察と課題」においては、「不明・無回答」は欠損値として処理し、各設問の有効回答数に基づいて分析・検討を行っている。

#### 1 人権に関する考え

表A

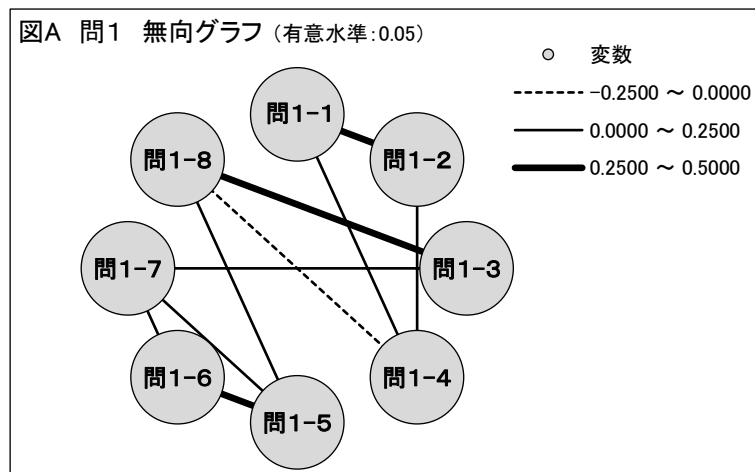
上段:割合(%) 下段:回答数(人)

問1	人権に関する考え			
	回答数	そう思う	いどえちならいとも	そう思わない
1. 人権とは、すべての人に平等に保障されている、法に基づいた基本的な権利だと思う	100.0 365	92.1 336	4.1 15	3.8 14
2. 人権が侵害されたときは、法的な手続きによって救済されるべきだと思う	100.0 365	91.8 335	6.3 23	1.9 7
3. 個人の権利よりも、伝統や慣習など地域全体の利益が優先されるべきだと思う	100.0 365	14.5 53	29.9 109	55.6 203
4. 「人権を守ること」は法律だけでなく、社会全体で取り組むべき課題だと思う	100.0 365	93.7 342	4.7 17	1.6 6
5. 今の社会では、社会的に弱い立場の人が優遇される一方で、一般の人々の努力が認められていないと感じることがある	100.0 365	56.2 205	30.4 111	13.4 49
6. 権利ばかり主張して、我慢できない人が増えてきていると感じる	100.0 365	68.5 250	24.1 88	7.4 27
7. 社会福祉に頼るのではなく、自立を目指してもっと努力するべきだと思う	100.0 365	47.7 174	38.6 141	13.7 50
8. 災害などの非常時には、支援が必要な人への特別な配慮ができなくても仕方がないと思う	100.0 365	12.3 45	21.4 78	66.3 242

「人権に関する考え」を問う項目は8項目であり、これら8項目について母偏相関係数の無相関の検定を行った結果は「表B」のとおりである。また、項目間の関係を無向グラフで示すと「図A」のようになる。

表B 問1 母偏相関係数の無相関の検定 [上三角:P値/下三角:\*P<0.05 \*\*P<0.01]

問1	1	2	3	4	5	6	7	8
1. 人権とは、すべての人に平等に保障されている、法に基づいた基本的な権利だと思う	-	P<0.001	0.8190	P<0.001	0.3073	0.6626	0.5521	0.0502
2. 人権が侵害されたときは、法的な手続きによって救済されるべきだと思う	**	-	0.2360	P<0.001	0.6468	0.2574	0.7470	0.2406
3. 個人の権利よりも、伝統や慣習など地域全体の利益が優先されるべきだと思う			-	0.1894	0.1338	0.0507	0.0324	P<0.001
4. 「人権を守ること」は法律だけでなく、社会全体で取り組むべき課題だと思う	**	**		-	0.1111	0.9658	0.9026	0.0022
5. 今の社会では、社会的に弱い立場の人が優遇される一方で、一般の人々の努力が認められていないと感じることがある					-	P<0.001	0.0405	0.0169
6. 権利ばかり主張して、我慢できない人が増えてきていると感じる					**	-	P<0.001	0.4361
7. 社会福祉に頼るのではなく、自立を目指してもっと努力するべきだと思う			*		*	**	-	0.6357
8. 災害などの非常時には、支援が必要な人への特別な配慮ができなくても仕方がないと思う			**	**	*			-



これらの検定結果および項目間の相関関係を踏まえ、8項目を次の3つの観点に分類する。

・人権の理念（問1-1，問1-2，問1-4）

本項における「人権の理念」とは、人権を抽象的な理想としてではなく、すべての人に平等に保障された法に基づく権利として理解しているかどうかを指し、「人権の理念（権利としての理解）」として位置づける。

・集団重視・伝統優先（問1-3，問1-8）

・自助・弱者優遇意識・権利の主張と自制（問1-5，問1-6，問1-7）

以下、それぞれの観点について整理する。

① 人権の理念（権利としての理解）

ア すべての人に平等に保障されていること

イ 人権が、特定の集団ではなく、一人ひとりに保障される権利であるという考え方

ウ 人権が、法（憲法を含む法律）に基づいて保障された基本的な権利であるという理解

これらの項目は、人権を権利としてどのように理解しているかを確認する内容である。

問1-1に「そう思う」と回答した割合は92.1%と高く、町民の多くが、人権を権利として理解していることがうかがえる。

② 集団重視・伝統優先

「個人の権利よりも、伝統や慣習など地域全体の利益を優先すべきである」とする問1-3では、「そう思わない」と回答した割合が55.6%を占めている。

このことから、人権の理念（権利としての理解）については概ね肯定的に受け止められているものの、個人の権利を地域全体の利益より優先すべきかどうかについては、回答に一定のばらつきがみられる。

③ 自助・弱者優遇意識・権利の主張と自制

ア 福祉や支援に頼るのではなく自立や努力を重視する考え方

イ 社会的に弱い立場の人が優遇されていると感じるかといった公正感

ウ 権利の主張とがまんや自制との関係についての考え方

これらの項目は、同じような考え方を持つ人が同じ回答をする傾向がみられるため、権利のあり方をどのように考えているかという共通した視点から整理する。

「権利ばかり主張して、我慢できない人が増えてきていると感じる」とする問1-6では、「そう思う」と回答した割合は68.5%と高く、町民の約7割が、権利の主張と自制（がまん）との関係を重視する意識があると考えられる。

## 2 「人権に関する考え」と「さまざまな人権課題」との関係

問1で分類した3つの観点から、それぞれ1~2項目を選択し、さまざまな人権課題に関する設問とのクロス集計を行い、取り上げる人権課題の違いによって、町民の「人権に関する考え」がどのように異なるのかを検討する。

### (1) 「人権に関する考え」から選択した項目

問1「人権に関する考え」から選択した項目は、次の4項目である。

#### 【人権の理念】(権利としての理解)

- ・人権とは、すべての人に平等に保障されている、法に基づいた基本的な権利だと思う。

#### 【集団重視・伝統優先】

- ・個人の権利よりも、伝統や慣習など地域全体の利益が優先されるべきだと思う。

#### 【自助・弱者優遇意識・権利の主張と自制】

- ・今の社会では、社会的に弱い立場の人が優遇される一方で、一般の人々の努力が認められていないと感じることがある。
- ・権利ばかり主張して、我慢できない人が増えてきていると感じる。

### (2) 人権課題から選択した項目(問11)

問11「人権課題についての意見に対する考え」から選択した項目は、次の3項目である。

#### ア 利益優先の雇用観(障がい者雇用に対する意識)(問11-3)

企業は利益を優先すべきなので、知的障がい者や精神障がい者などの雇用が進まなくても仕方がない。

#### イ 体罰容認のしつけ観(問11-10)

子どものしつけのためなら、時には親(大人)が体罰を行ってもやむを得ないことがある。

#### ウ 感染症への不安や偏見意識(問11-11)

エイズ(HIV)やハンセン病患者・回復者がいる職場では、一緒に働くのは不安だと思う。

これらの人権課題は、人権の理念(権利としての理解)をはじめとする人権に関する考え方と、具体的な日常の場面における判断との関係を検討する上で、重要な分析対象である。

以下では、人権に関する考えと、さまざまな人権課題との関係について、クロス分析した結果を示す。

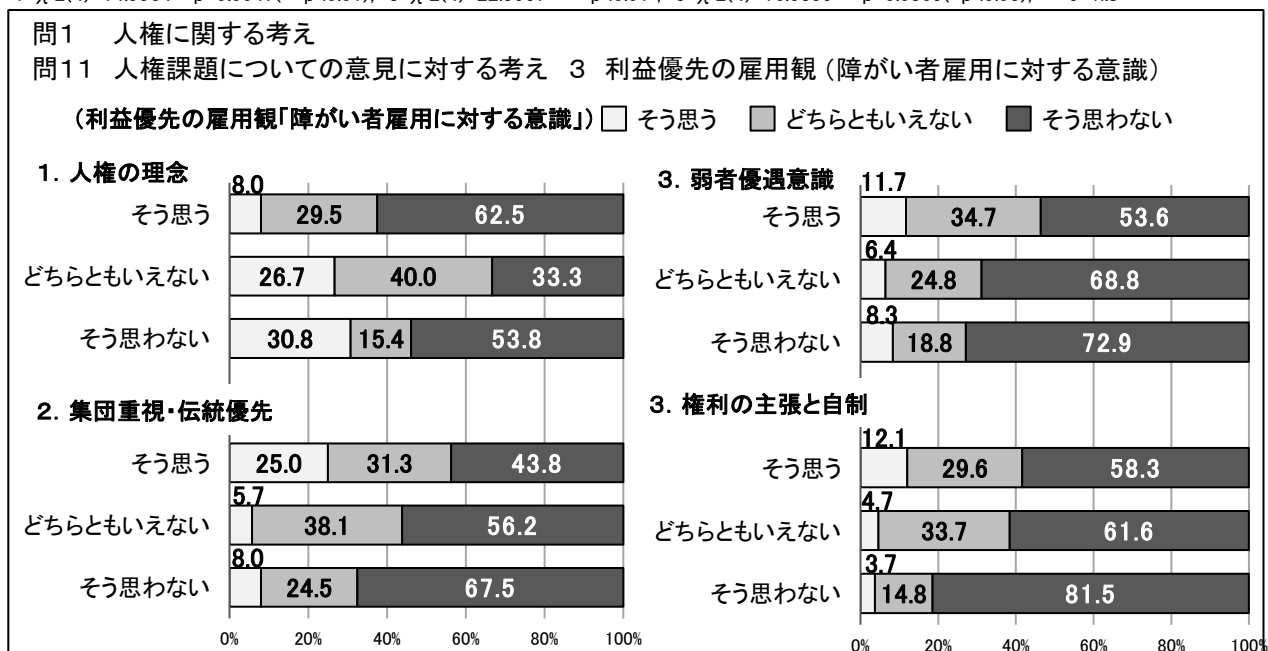
— 「人権に関する考え」と「利益優先の雇用観」（障がい者雇用に対する意識）—

問1「人権に関する考え」で分類した3つの観点（人権の理念「権利としての理解」、集団重視・伝統優先、自助・弱者優遇意識・権利の主張と自制）と問11-3「企業は利益を優先すべきなので、知的障がい者や精神障がい者などの雇用が進まなくても仕方がない」（利益優先の雇用観）とのクロス集計を行い、人権に関する考えと、利益優先の雇用観との関係を分析する。

上段：割合(%) 下段：回答数(人)

問11 人権課題についての意見に対する考え			3. 利益優先の雇用観(障がい者雇用に対する意識)			
			企業は利益を優先すべきなので、知的障がい者や精神障がい者などの雇用が進まなくても仕方がない			
問1 人権に関する考え			回答数	そう思う	いどちえならなとも	そう思わない
全 体			100.0 353	9.6 34	29.5 104	60.9 215
1 理人権の 念	1 人権とは、すべての人に平等に保障されている、法に基づいた基本的な権利だと思う	そう思う	100.0 325	8.0 26	29.5 96	62.5 203
		どちらともいえない	100.0 15	26.7 4	40.0 6	33.3 5
		そう思わない	100.0 13	30.8 4	15.4 2	53.8 7
・ 2 伝集 統団 優重 先視	3 個人の権利よりも、伝統や慣習など地域全体の利益が優先されるべきだと思う	そう思う	100.0 48	25.0 12	31.3 15	43.8 21
		どちらともいえない	100.0 105	5.7 6	38.1 40	56.2 59
		そう思わない	100.0 200	8.0 16	24.5 49	67.5 135
・ 3 権自 助の 主弱 張者 と優 自 遇 制 意 識	5 今の社会では、社会的に弱い立場の人が優遇される一方で、一般の人々の努力が認められていないと感じることがある(弱者優遇)	そう思う	100.0 196	11.7 23	34.7 68	53.6 105
		どちらともいえない	100.0 109	6.4 7	24.8 27	68.8 75
		そう思わない	100.0 48	8.3 4	18.8 9	72.9 35
	6 権利ばかり主張して、我慢できない人が増えてきていると感じる(権利の主張と自制)	そう思う	100.0 240	12.1 29	29.6 71	58.3 140
		どちらともいえない	100.0 86	4.7 4	33.7 29	61.6 53
		そう思わない	100.0 27	3.7 1	14.8 4	81.5 22

1  $\chi^2(4)=14.9964$   $p=0.0047$ (\*\* $p<0.01$ ), 3  $\chi^2(4)=22.5067$  \*\* $p<0.01$ , 5  $\chi^2(4)=10.6399$   $p=0.0309$ (\* $p<0.05$ ), 6 n.s



人権の理念（権利としての理解）（問 1-1）である「人権とは、すべての人に平等に保障されている、法に基づいた基本的な権利だと思う」に「そう思う」と回答した層では、「障がい者の雇用が進まなくても仕方がない」（利益優先の雇用観）に「そう思わない」が 62.5%と高く、「そう思う」は 8.0%と低い割合である。一方、「人権の理念」に対して「そう思わない」、「どちらともいえない」と回答した層では、「利益優先の雇用観」に「そう思う」がそれぞれ 30.8%、26.7%と相対的に高い割合を示している。ただし、「そう思わない」、「どちらともいえない」はいずれも回答数が少ないため、結果の解釈には留意が必要である。

集団重視・伝統優先（問 1-3）である「個人の権利よりも、伝統や慣習など地域全体の利益が優先されるべきだと思う」に「そう思う」と回答した層では、「利益優先の雇用観」に「そう思う」が 25.0%と、比較的高い割合を示している。一方、「集団重視・伝統優先」に対して「そう思わない」と回答した層では、利益優先の雇用観に「そう思わない」が 67.5%と高く、否定的な回答が多くみられる。

弱者優遇意識（問 1-5）である「今の社会では、社会的に弱い立場の人が優遇される一方で、一般の人々の努力が認められていないと感ずることがある」に「そう思う」と回答した層では、「利益優先の雇用観」に「そう思う」が 11.7%と一定の割合を占めている。一方、「弱者優遇意識」に「そう思わない」と回答した層では、「利益優先の雇用観」に「そう思わない」が 72.9%と高い割合を占めている。

権利の主張と自制（問 1-6）である「権利ばかり主張して、我慢できない人が増えてきていると感ずる」に「そう思う」と回答した層では、「利益優先の雇用観」に「そう思う」が 12.1%と一定の割合を占めている。一方、「権利の主張と自制」に「どちらともいえない」と回答した層では、「利益優先の雇用観」に「どちらともいえない」が 33.7%と相対的に高い割合を示しており、判断を保留している層が一定数いることがうかがえる。また、「権利の主張と自制」に「そう思わない」と回答した層では、「利益優先の雇用観」に「そう思わない」が 81.5%と高く、否定的な回答が多くみられる。しかし、「権利ばかり主張して我慢できない人が増えてきている」と感ずるかどうかによって、企業の利益を優先して障がい者雇用が進まなくても仕方がないと思えるかどうかには、明確な違いはみられない。

以上の結果から、障がい者雇用をめぐる意識は、人権をどのように捉えているか、また社会や集団のあり方をどのように認識しているかといった価値観と関係していることがうかがえる。人権を権利として重視している人ほど、障がい者雇用について利益優先の考え方に否定的である一方、個人の権利よりも集団全体の利益や伝統を重視する意識が強い人、あるいは社会的に弱い立場の人が優遇されていると感ずている人ほど、企業の判断として障がい者雇用が進まなくてもやむを得ないと受け止める傾向がみられる。

これらのことから、「権利の主張や自制」といった個人の態度に関する意識よりも、「平等に保障されるべき権利であるかどうか（人権の理念）」、「集団全体にとってどうか（集団重視・伝統優先）」、「努力は報われているか（弱者優遇意識）」といった観点が、障がい者雇用をめぐる判断において相対的に重視されていると考えられる。

また、4つの観点の違いにかかわらず、全体としては「障がい者雇用が進まなくても仕方がない」という利益優先の考え方に否定的な回答が多数を占めている。

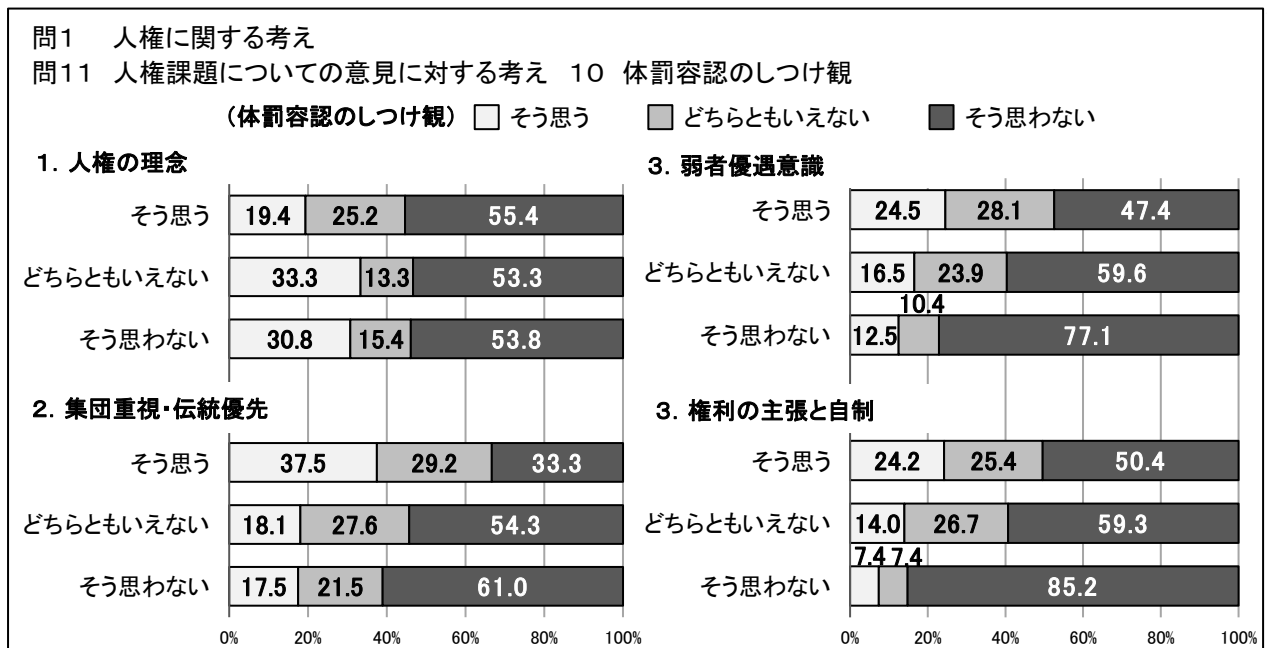
— 問1「人権に関する考え」と問11-10「体罰容認のしつけ観」（子どもの人権）—

問1「人権に関する考え」で分類した3つの観点（人権の理念「権利としての理解」、集団重視・伝統優先、自助・弱者優遇意識・権利の主張と自制）と問11-10「子どものしつけのためなら、時には親（大人）が体罰を行ってもやむを得ないことがある」（体罰容認のしつけ観）とのクロス集計を行い、人権に関する考えと、体罰容認のしつけ観との関係を分析する。

上段：割合(%) 下段：回答数(人)

問11 人権課題についての意見に対する考え			10. 体罰容認のしつけ観			
			子どものしつけのためなら、時には親(大人)が体罰を行ってもやむを得ないことがある			
問1 人権に関する考え			回答数	そう思う	いどちらないとも	そう思わない
全 体			100.0 353	20.4 72	24.4 86	55.2 195
1 理人権の 念	1 人権とは、すべての人に平等に保障されている、法に基づいた基本的な権利だと思う	そう思う	100.0 325	19.4 63	25.2 82	55.4 180
		どちらともいえない	100.0 15	33.3 5	13.3 2	53.3 8
		そう思わない	100.0 13	30.8 4	15.4 2	53.8 7
・ 2 伝集 統団 優重 先視	3 個人の権利よりも、伝統や慣習など地域全体の利益が優先されるべきだと思う	そう思う	100.0 48	37.5 18	29.2 14	33.3 16
		どちらともいえない	100.0 105	18.1 19	27.6 29	54.3 57
		そう思わない	100.0 200	17.5 35	21.5 43	61.0 122
・ 3 権自 利助 の・ 主弱 張者 と優 遇意 識	5 今の社会では、社会的に弱い立場の人が優遇される一方で、一般の人々の努力が認められていないと感じることがある(弱者優遇)	そう思う	100.0 196	24.5 48	28.1 55	47.4 93
		どちらともいえない	100.0 109	16.5 18	23.9 26	59.6 65
		そう思わない	100.0 48	12.5 6	10.4 5	77.1 37
	6 権利ばかり主張して、我慢できない人が増えてきていると感じる(権利の主張と自制)	そう思う	100.0 240	24.2 58	25.4 61	50.4 121
		どちらともいえない	100.0 86	14.0 12	26.7 23	59.3 51
		そう思わない	100.0 27	7.4 2	7.4 2	85.2 23

1 n.s 3  $\chi^2(4)=14.9524$  p=0.0048(\*\*p<0.01) 5  $\chi^2(4)=15.5076$  p=0.0038(\*\*p<0.01) 6  $\chi^2(4)=14.8024$  p=0.0051(\*\*p<0.01)



人権の理念（権利としての理解）（問 1-1）について「そう思う」と回答した人は 325 名で、そのうち「子どものしつけのためなら、時には親（大人）が体罰を行ってもやむを得ないことがある」（体罰容認のしつけ観）に「そう思う」と回答した人は 63 名（19.4%）と、約 2 割を占めている。また、「どちらともいえない」は 82 名（25.2%）と判断を保留する人も約 4 分の 1 を占めている。一方、「そう思わない」が 180 名（55.4%）と、体罰に反対する人が半数を超えている。

集団重視・伝統優先（問 1-3）に「そう思う」と回答した層では、「体罰容認のしつけ観」に「そう思う」が 37.5%、「そう思わない」が 33.3%と、体罰を容認する割合が比較的高い。一方、「集団重視・伝統優先」に「そう思わない」と回答した層では、「体罰容認のしつけ観」に「そう思う」は 17.5%で、「そう思わない」が 61.0%と多数を占めている。

弱者優遇意識（問 1-5）に「そう思う」と回答した層では、「体罰容認のしつけ観」に「そう思う」が 24.5%、「そう思わない」が 47.4%を占めている。一方、「弱者優遇意識」に「そう思わない」と回答した層では、「体罰容認のしつけ観」に「そう思う」は 12.5%で、「そう思わない」が 77.1%と 7 割を超えている。

権利の主張と自制（問 1-6）に「そう思う」と回答した層では、「体罰容認のしつけ観」に「そう思う」が 24.2%、「そう思わない」が 50.4%を占めている。一方、「権利の主張と自制」に「そう思わない」と回答した層では、「体罰容認のしつけ観」に「そう思う」は 7.4%と低く、「そう思わない」は 85.2%と 8 割を超えている。

「人権を、すべての人に平等に保障される権利」として理解している人であっても、「子どものしつけ」という身近で具体的な場面では、その理念が必ずしもそのまま判断に結びつくとは限らない場合があることがうかがえる。つまり、子どもを権利の主体として捉える視点が、十分に反映されていない可能性がある。実際に、人権の理念（権利としての理解）に賛同している人の中にも、体罰を「やむを得ない」と考える人が一定数存在している。

一方で、「伝統優先・集団秩序」を重視する意識が強い人ほど体罰を容認する割合が高く、「社会では弱者が優遇されている」「権利ばかり主張して、我慢できない人が増えてきている」といった意識が強い人の場合にも、体罰を肯定する割合が高くなる傾向がみられる。

これらの結果を踏まえると、人権の理念（権利としての理解）は、子どものしつけに関する具体的な判断の場面において、必ずしも日常の判断に十分に反映されていない現状が考えられる。特に、集団の秩序や規範を重視する価値観や、社会に対する不公平感が強い場合には、体罰を「やむを得ないもの」と受け止めやすい傾向があると考えられる。

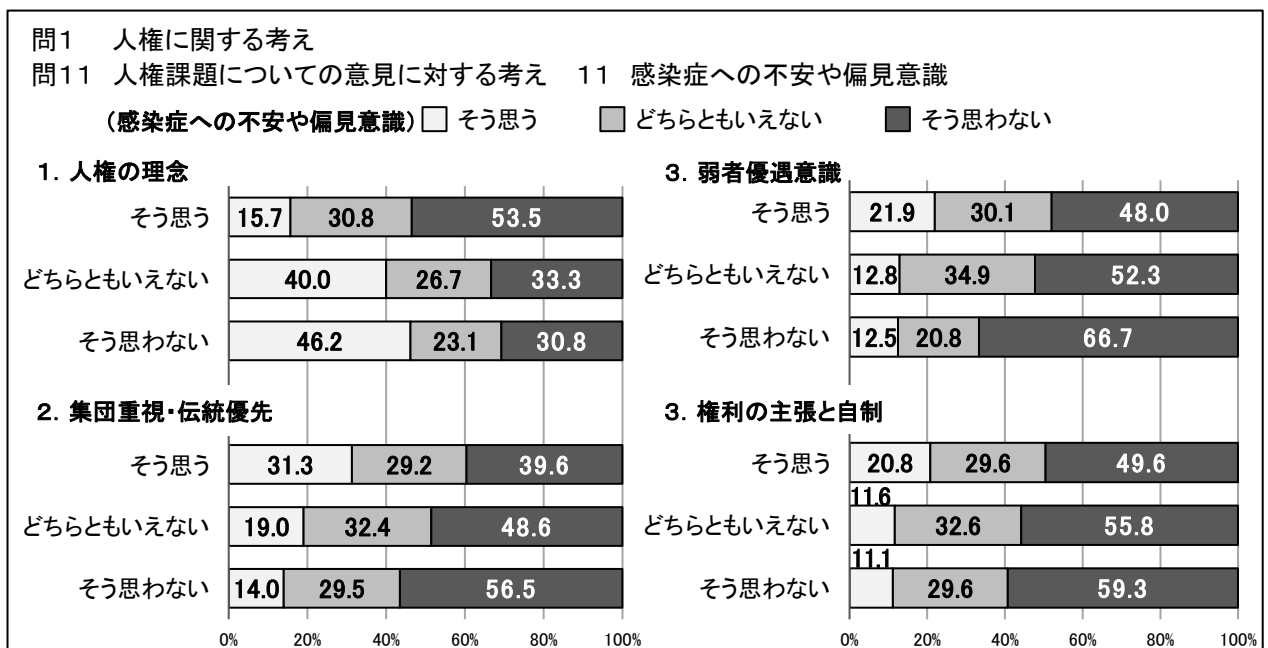
— 問1「人権に関する考え」と問11-11「感染症への不安や偏見意識」 —

問1「人権に関する考え」で分類した3つの観点（人権の理念「権利としての理解」、集団重視・伝統優先、自助・弱者優遇意識・権利の主張と自制）と問11-11「エイズ（HIV）やハンセン病患者・回復者がいる職場では、一緒に働くのは不安だと思う」（感染症への不安や偏見意識）とのクロス集計を行い、人権に関する考えと、感染症への不安や偏見意識との関係を分析する。

上段：割合(%) 下段：回答数(人)

問11 人権課題についての意見に対する考え			11. 感染症への不安や偏見意識			
			エイズ(HIV)やハンセン病患者・回復者がいる職場では、一緒に働くのは不安だと思う			
問1 人権に関する考え			回答数	そう思う	いどちえならいとも	そう思わない
全 体			100.0 353	17.8 63	30.3 107	51.8 183
1 理人権の	1 人権とは、すべての人に平等に保障されている、法に基づいた基本的な権利だと思う	そう思う	100.0 325	15.7 51	30.8 100	53.5 174
		どちらともいえない	100.0 15	40.0 6	26.7 4	33.3 5
		そう思わない	100.0 13	46.2 6	23.1 3	30.8 4
・ 2 伝集 統団 優重 先視	3 個人の権利よりも、伝統や慣習など地域全体の利益が優先されるべきだと思う	そう思う	100.0 48	31.3 15	29.2 14	39.6 19
		どちらともいえない	100.0 105	19.0 20	32.4 34	48.6 51
		そう思わない	100.0 200	14.0 28	29.5 59	56.5 113
・ 3 権自 利助 の・ 主弱 張者 と優 遇 自 制 意 識	5 今の社会では、社会的に弱い立場の人が優遇される一方で、一般の人々の努力が認められていないと感じることがある(弱者優遇)	そう思う	100.0 196	21.9 43	30.1 59	48.0 94
		どちらともいえない	100.0 109	12.8 14	34.9 38	52.3 57
		そう思わない	100.0 48	12.5 6	20.8 10	66.7 32
	6 権利ばかり主張して、我慢できない人が増えてきていると感じる(権利の主張と自制)	そう思う	100.0 240	20.8 50	29.6 71	49.6 119
		どちらともいえない	100.0 86	11.6 10	32.6 28	55.8 48
		そう思わない	100.0 27	11.1 3	29.6 8	59.3 16

1  $\chi^2(4)=13.4046$  p=0.0095(\*\*p<0.01), 3 n.s., 5 n.s., 6 n.s



人権の理念（権利としての理解）（問 1-1）について「そう思う」と回答した人は 325 名で、そのうち「エイズ（HIV）やハンセン病患者・回復者がいる職場では、一緒に働くのは不安だと思う」（感染症への不安や偏見意識）に「そう思う」と回答した人は 51 名（15.7%）、「どちらともいえない」は 100 名（30.8%）である。これらを合わせると、151 名（46.5%）が感染症に対して何らかの不安を感じていることがわかる。一方で、「そう思わない」は 174 名（53.5%）で、半数を超えている。

集団重視・伝統優先（問 1-3）に「そう思う」と回答した層では、「感染症への不安や偏見意識」に「そう思う」が 31.3%、「そう思わない」が 39.6%である。一方、「集団重視・伝統優先」に「そう思わない」と回答した層では、「感染症への不安や偏見意識」に「そう思う」は 14.0%で、「そう思わない」が 56.5%と過半数を占めている。

弱者優遇意識（問 1-5）に「そう思う」と回答した層では、「感染症への不安や偏見意識」に「そう思う」が 21.9%、「そう思わない」が 48.0%であるのに対し、「弱者優遇意識」に「そう思わない」と回答した層では、「感染症への不安や偏見意識」に「そう思う」は 12.5%、「そう思わない」が 66.7%と高い割合を示している。

権利の主張と自制（問 1-6）に「そう思う」と回答した層では、「感染症への不安や偏見意識」に「そう思う」が 20.8%、「そう思わない」が 49.6%である。一方、「権利の主張と自制」に「そう思わない」と回答した層では、「感染症への不安や偏見意識」に「そう思う」は 11.1%、「そう思わない」は 59.3%となっている。

また、全体の 3 割以上が「どちらともいえない」と回答している点にも注目する必要がある。明確な差別意識を持っていなくても、感染症に関する誤解や漠然とした不安が、結果として偏見や距離を置く行動につながる場合があることも考慮する必要がある。

人権の理念を「すべての人に平等に保障されている権利」として理解している人ほど、感染症を理由に不安を感じたり、距離を置いたりすることに否定的な傾向があり、感染症への不安や偏見意識と人権理解との関係がうかがえる。一方、その理解が十分でない場合には、感染症に対する不安や偏見が生じやすいと考えられる。

さらに、自分の生活との接点が比較的少ないと感じられる人権課題については、人権の理念（権利としての理解）が、判断や態度に反映されやすい。一方、子どものしつけや職場・地域での関わりなど日常生活に密接に関わる身近な人権課題では、人権の重要性を理解していても、必ずしも具体的な判断や行動に結びつかない場合がある。その背景には、身近な人権課題に対する考え方や行動が、人権に関する知識や理解の程度だけでなく、集団の秩序や慣習を重視する意識、社会に対する不公平感、権利よりも自制を重んじる価値観、さらにこれまでの経験など、さまざまな要因の影響を受けている可能性がある。また、人権が抽象的理念として理解されている場合には、具体的な場面での判断や態度と一致しないこともあると考えられる。

人権とは、「誰が、どのような権利を持っているのか」という具体的な権利の問題である。人権教育・啓発においては、人権を抽象的な理念として提示するだけでなく、具体的な場面を通して、「どのような考え方や行動が人権尊重につながるのか」をわかりやすく示していく視点が必要である。